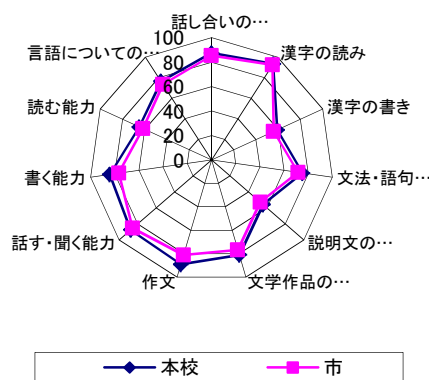


宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容の聞き取り	87.5	85.4
	漢字の読み	93.4	92.4
	漢字の書き	59.1	56.0
	文法・語句に関する知識	75.2	71.7
	説明文の内容の読み取り	55.8	53.0
	文学作品の内容の読み取り	81.0	76.7
	作文	89.0	81.1
観点別	話す・聞く能力	87.5	85.4
	書く能力	84.1	76.6
	読む能力	65.0	61.6
	言語についての知識・理解・技能	76.4	73.5



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容の聞き取り	市の数値を2.1ポイント上回る結果となった。また、その詳細を見てみても全体的に市の平均を上回る結果となっており、意見や考えを持ち、それをいかにして効果的に他者に伝えるかといった、コミュニケーション能力を育む授業展開が功を奏していると考えられる。	聞き取りの領域に関しては、全てにおいて全国正答率を上回る結果となっており、今後もコミュニケーション能力を基盤とした授業の充実を継続する。しかしながら、「話し合いが目的に沿って効果的に展開できるように聞き取ることができる。」という出題に対しての正答率が市の平均を0.1ポイント下回っており、今後は「効果的な聞き取り」とは何かを明確にしながら授業を進めていく。
漢字	漢字の読みに関しては全ての問題で全国正答率を上回る結果となっている。また、1か所を除いた問題で市の正答率を上回ることもできた。一方で書きに関しては半分の問題で全国正答率を下回る結果となった。市の正答率とは1か所を除いて上回ることができた。	読みの問題に比べ、書きの問題に理解力の低さが見られる。漢字テストなどの小テストを繰り返すのみではなく、同音異義語や同訓異字を明確に使い分けられることのできるような応用力や、文章の中で正しい漢字を書き分ける力を伸ばせるよう文章の中で漢字を書く作業を増やしていく。
文法・語句に関する知識	すべての問題において市の平均を上回る結果となった。特に「単語の分類についての理解」に関しては市の平均正答率を9.1ポイント、全国平均正答率を12.3ポイント上回っている。そういった中でも「動詞の活用に関する理解」に関しては市の平均正答率を上回っているものの全国平均正答率を下回る結果となった。	今回の結果を見ても、単語や類義語、敬語といったものに関する知識は十分に定着されたと言える。しかしながら複雑である「動詞の活用」や「助動詞の活用」に関しては時間をかけて学習してきたが、十分に定着するには至っていない。今後も小テストなどで反復した学習を行い、「品詞」に関する知識がさらに定着していくようにする。
説明文の内容の読み取り	ほぼすべての問題に対して全国正答率を上回ることができた。市の平均正答率に比べても高い正答率を収めることができているが、「文章の展開に即して内容をとらえる」問題に関しては市の平均を1ポイント下回り、正答率が92.3%であった。	「書き手の論理の展開の仕方を的確に理解することができる」「文章の展開に即して要旨をとらえることができる」力が問われる問題に対しての正答率が低いことを指導の重点課題としてとらえている。特に「書き手の論理の展開の仕方を的確に理解することができる」力に関しては、全国的にも軒並み50%を下回る正答率となっており、改善が急務である。単に読み取るのではなく、「書き手の考えを的確に取らえる」ことができるよう、論理的な展開の構成を説明する時間をとる。
文学作品の内容の読み取り	すべての問題において全国正答率を上回ることができている。特に「場面の展開に即して人物の心情をとらえることができる」力を問う問題に関しては市の平均正答率を11.9ポイント、全国平均正答率を19.9ポイント上回る、高い理解度を収めることができた。	すべてにおいて全国平均正答率を上回っており、引き続き現状の授業スタイルを継続していく考えである。しかしながら、「文脈の中での語句の効果的な使い方」を問う問題に対しての正答率は市の平均正答率を1.6ポイント下回る81.7%となっており、文脈上の語句の使い方をも的確にとらえることができるよう、特に接続詞や指示語の扱いについての指導を強化していく。
作文	すべての問題に対して全国平均正答率を大きく上回る結果を収めた。市の平均正答率に対してもすべて上回った。特に「伝えたい事柄を整理する」力を問う問題に関しては平均で18ポイント、「伝えたい事柄を明確にして自分の考えを書く」力を問う問題に対しては15.7ポイント全国平均正答率を上回る、高い正答率を収めた。	すべての問題において全国・市の平均を大きく上回る結果となっているため、授業スタイルを継続する。作文に関しては誤字や脱字などのケアレス・ミスが後を絶たないため、これまで以上に読み直しや推敲の徹底を心がけるよう働きかけをしていく。